

BSE ってどんな病気ですか？

BSE とは、**牛海綿状脳症**という**牛の病気**です。プリオンという異常なタンパク質が脳や神経の中で増えていくことによって、脳の組織がスポンジのようになっていきます。そうすると、光や音へ過剰に反応する、立ち上がれないなどの症状を起こすようになり、最後は死んでしまいます。このような症状から「狂牛病」とも言われました。

脳や脊髄での
プリオンの蓄積

脳や脊髄を含む食用
にならない部分

肉骨粉・代用乳

食肉・脳や脊髄（特定危険部位）

なぜBSEにかかるとのですか？

ウイルスや細菌によって感染する他の病気とは違って、BSEは異常なタンパク質である**プリオン**によって感染すると考えられています。このプリオンを牛が**食べる**ことにより感染し、空気などを通しては感染しません。牛の肉や骨などを原料とした**肉骨粉**という餌や代用乳が牛の餌として与えられることがありました。その原料となった牛がBSEにかかっていた場合、その牛のプリオンが餌を食べた牛の体内に吸収され、それが脳など神経の中で増えていくと考えられています。

プリオンって何ですか？

プリオンとは、**異常なタンパク質**のことです。正常なタンパク質を食べても、それが体内に入り増えることはありません。しかし、タンパク質の構造の一部が変わったプリオンは、体内に吸収され、脳や脊髄などの特定の部分で増えていきます。こうした**感染する性質**をもったタンパク質のことをプリオンと呼びます。このプリオンは、消毒や普通の加熱では壊れることなく残り続けます。

BSEはどれくらい発生していますか？

日本では、2001年9月に千葉県で初めて発見されました。その後、**36頭**の牛が発見されています。そのうち、乳牛が32頭、肉牛が4頭です。産地別にみると**北海道産**の牛が一番多く**28頭**発見されています。2002年1月13日以降に生まれた牛からは、BSEは発見されておらず、日本国内でのBSE対策は機能していると考えられます。

北海道産 28頭



日本全国 36頭



BSEは人にうつりますか？

BSEにかかった牛の異常プリオンを人が食べることによって、BSEのように脳や神経を冒される人の病気である**変異型クロイツフェルト・ヤコブ病**にかかるとはなれないといわれています。ただ、BSEにかかった牛の肉を食べてもそこにはBSEの原因であるプリオンは殆ど含まれていません。また、脳や神経などプリオンの含まれる特定の部分を食べた人でも、全員が変異型クロイツフェルト・ヤコブ病にかかるとは限りません。

BSEの研究は進んでいますか？

BSEは1986年にイギリスで発見された**新しい病気**です。各国で研究が進められ、どこにプリオンが蓄積されるかが分かってきたり、BSEにかかっているかどうかを調べる技術は進歩しました。しかし、治療法や予防法、そもそもプリオンがどのようなものなのかやなぜプリオンが溜まっていくと脳の神経が壊されていくかなどは分かっていません。BSEは**分かっていないことがまだ多く残されている**病気です。